

京阪ホールディングス サステナビリティボンド・フレームワーク

1. はじめに

京阪ホールディングス株式会社（以下、「当社」）は、以下の通り、サステナビリティボンド・フレームワーク（以下、「本フレームワーク」）を策定しました。本フレームワークは、国際資本市場協会（ICMA）が定めるグリーンボンド原則（GBP）2021、ソーシャルボンド原則（SBP）2021、サステナビリティボンドガイドライン（SBG）2021 及び環境省のグリーンボンドガイドライン（2020 年度版）に基づき策定しており、適合性及び本フレームワークの信頼性と環境、社会への効果に対する外部評価（セカンドオピニオン）を株式会社格付投資情報センターより取得しております。このフレームワークに基づき、当社はサステナビリティボンドを発行します。

1.1 発行体概要

京阪グループは、約 50 社におよぶグループ会社で形成され、運輸業、不動産業、流通業、レジャー・サービス業といった多岐にわたる事業を展開しています。

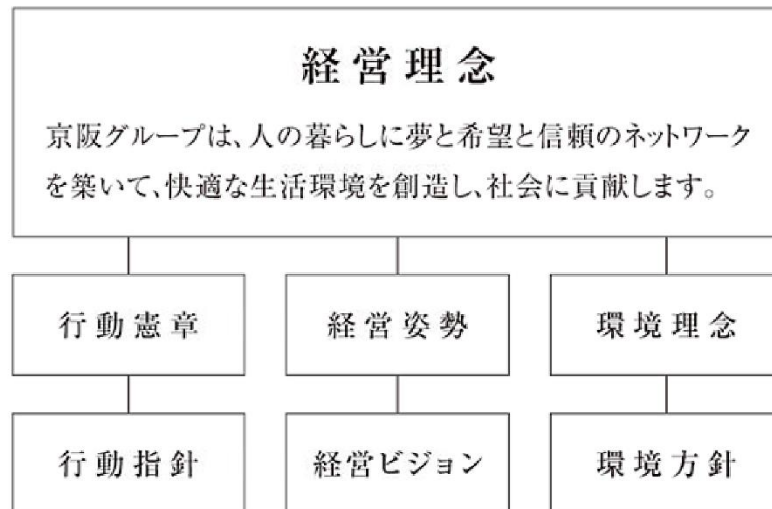
社会・経済環境が変化するなかにあっても、グループ存立の基盤である「安全安心」という普遍的価値を守りながら、これらの生活に密接したさまざまな事業の展開を通じ、新たな価値を社会に提供するとともに、社会課題の解決に取り組み、社会とともに持続的に発展していくため、京阪グループはチャレンジを進めています。

1.2 経営理念体系

京阪グループは、21 世紀にも輝き、繁栄を続ける企業グループを目指して、京阪グループの社会的使命や責任を社内外のステークホルダーに明確にお伝えするため、1998 年 7 月、「経営理念」を制定しました。

この「経営理念」を上位概念として、経営理念を日常の行動で実現するための基本方針として「行動憲章」を、経営の意思決定における価値前提となるものとして「経営姿勢」を、環境にやさしい企業を目指すための考え方として「環境理念」を定めています。

さらに、「行動憲章」、「経営姿勢」、「環境理念」のもとに、それぞれを具現化するための「行動指針」、「経営ビジョン」、「環境方針」を定めています。



1.3 価値創造のための経営戦略

京阪グループは、2018年5月、2050年を見据えた新たな経営ビジョンと、その実現に向けた「京阪グループ長期戦略構想」を発表しました。また、コロナ禍によりライフスタイルが大きく変化している現状を踏まえ、2020年11月、「今後の事業の方向性」を示しました。

<経営ビジョン>

長期的には、人口減少に伴う国内市場の飽和、国際的な都市間競争の激化、IoTやAIをはじめとするテクノロジーの進化、IR（統合型リゾート）や大阪万国博覧会といった関西エリアでの様々な事業構想など、人のくらしや価値観、そして京阪グループの経営に大きく影響する様々な変化が予測されます。

こうしたなか、グループの事業に質のイノベーションを起こし、変化に一步先んじて機会を捉え、「価値創造」と「グローバル展開」に挑戦するグループへと変貌を遂げるべく、新たな経営ビジョンを掲げました。

美しい京阪沿線、世界とつながる京阪グループへ

- 歴史・文化・景観に彩られた京阪沿線が、国や時代を超えてもっと多くの人から住みたい、訪れたい美しい沿線として選ばれるよう、まちや観光の価値を創造し、世界へ発信します
- こころとからだに潤いをもたらし、持続可能な社会の実現に寄与する美しいライフスタイルを京阪沿線で創造し、世界に共感の輪を広げます
- 多くのインバウンドを沿線に迎えるとともに、アジア・ワイドで事業を展開することに挑戦します

<長期経営戦略>

京阪グループ長期戦略構想は、今後予測される社会・経済環境の激変のなかにあっても、グループがさらなる成長を遂げ、社会から必要とされる企業としてあり続けるための、将来への指針として策定したものです。

この京阪グループ長期戦略構想のもと、経営ビジョン「美しい京阪沿線、世界とつながる京阪グループへ」の実現に向け、2026年度を目標年次とする長期経営戦略を定め、「沿線再耕」「観光共創」「共感コンテンツ創造」の主軸戦略を推進しております。

沿線再耕	・ 当社グループにとって沿線価値向上は経営の原点であるため、 淀屋橋、中之島、枚方市 を中心に、ライフスタイルの変化に応じた拠点開発を引き続き推進する
観光共創	・ ウィズコロナ・アフターコロナの社会における観光のあり方を見極め、足元の需要を確実に取り込むとともに、回復期に向けた準備を進める
共感コンテンツ創造	・ コロナ禍により、BIOSTYLEが、お客さまに共感されやすい状況となったことを踏まえ、グループ全体での BIOSTYLE PROJECT の推進・確立に取り組む

<今後の事業の方向性>

昨今の新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、人の移動を根幹とする当社グループの事業活動に幅広い影響が生じており、また、お客さまの価値観やライフスタイルも大きく変化いたしました。

この現状を踏まえ、当社グループでは、当面の間を「激変する事業環境の見極め期間」とし、以下のとおり「安全安心」「構造改革」「BIOSTYLE（ビオスタイル）」を今後の事業の方向性と定め、経営基盤の立て直しを図ります。なお、長期経営戦略に掲げる主軸戦略については、ウィズコロナ・アフターコロナの社会を見据え、各プロジェクトの見直しを図りながら、進めてまいります。

安全安心	・ 感染症や災害等により不安にさらされる状況においても、 安心してご利用いただける商品・サービス を提供
構造改革	・ 既存事業の需要の変化に対応した体制を確立 するとともに、新しい生活様式に対応する商品・サービスを展開
BIOSTYLE	・ 人々の暮らしの価値を高めると同時に 社会課題の解決に資する商品・サービス を展開

1.4 サステナビリティ経営の推進

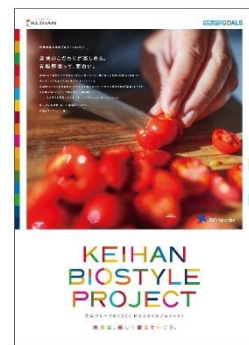
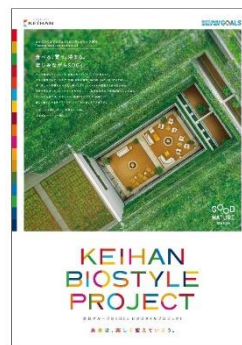
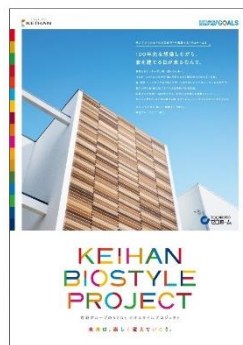
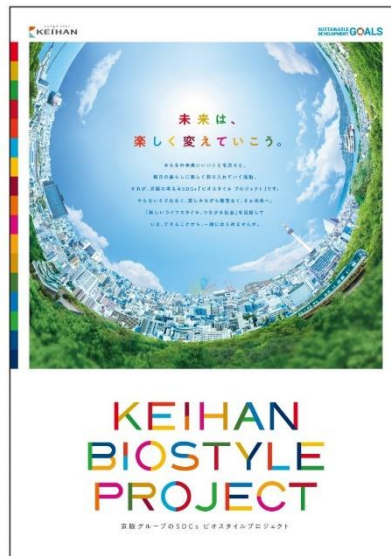
京阪グループには、100年以上の長きにわたり、事業を通じて社会とともに持続的発展を目指してきた歴史があり、その歴史を支えてきた思想は「経営理念」として明文化されています。激変する社会環境のなか、ESG（環境・社会・ガバナンス）やSDGs（持続可能な開発目標）といった新たな社会からの期待にも応えながら、「経営理念」を誠実に実践し、実現を目指していくことこそが、京阪グループのサステナビリティ経営であると考えています。

サステナビリティ経営にあたり、京阪グループでは、「BIOSTYLE」を“京阪版 SDGs”と位置づけ、未来に向けた新しい活動を他社に先駆けて次々に展開して、「BIOSTYLE」を世界から注目される京阪ブランドとして強化・確立することを目指しています。2030 年をゴールとする SDGs 達成への貢献と、2050 年を目標とする経営ビジョンの実現に向けて、「BIOSTYLE PROJECT」を推進してまいります。

<「BIOSTYLE PROJECT」とは>

“人にも地球にもいいものごとを、毎日の生活の中に、楽しく、無理なく、取り入れていくことができる明るい循環型社会の実現を目指す活動”で、「京阪グループにおける SDGs 達成に向けた取り組み」と位置付けるものです。2020 年 4 月には「BIOSTYLE」に資する事業の認証制度として「BIOSTYLE PROJECT ガイドライン」を策定するなど、グループ全体で SDGs 達成に向けた取り組みを進めています。

活動ガイドライン			重点SDGs項目
1 GOOD for Health	体に良いか	人々の健康的なライフスタイルを促進し、いきいきとした社会の実現に貢献する事業・取り組み。 (例)健康増進 / 無農薬・ビオ・オーガニック / 添加物削減	
2 GOOD for Minds	心に良いか	ストレスのない社会、人々が安心・快適に暮らせる社会の実現、使って楽しい心地よいサービスの提供。働き甲斐を感じられる会社へ。 (例)快適なサービス / 環境負荷への罪悪感低減 / 働き方改革	
3 GOOD for Locals	地域に良いか	京阪沿線を中心に地域活性化や、地元の産業育成、地元の環境保全などに貢献できる事業や取り組み。 (例)地域コミュニティ貢献 / 熱意ある生産者の支援 / 地産地消	
4 GOOD for Social	社会に良いか	すべての人々が幸せに暮らせる社会の実現、より美しいライフスタイルの実現に貢献する事業・取り組み。 (例)フェアトレード / ダイバーシティ / パリアフリー	
5 GOOD for Earth	地球に良いか	地球温暖化対策、プラスチックゴミ問題など、地球規模での環境保全に貢献する事業・取り組み。 (例)循環型社会への取り組み / クリーンエネルギー / 排CO ₂ 対策 / 生物多様性	
グループガイドライン			
6 GOOD for KEIHAN Brand	京阪ブランドに貢献するか	人々の共感や感動を得ることで京阪ブランドの価値向上に資する事業・取り組み、先駆的な取り組みかどうか。	
7 GOOD for KEIHAN Business	事業性・継続性はあるか	事業として成立し、継続的に実行していくことができる事業・取り組みかどうか。	



<「BIOSTYLE PROJECT」と資金使途の関連性>

今後の事業の方向性

BIOSTYLE PROJECT

資金使途の適格カテゴリー

重要項目	項目	活動ガイドライン	適格カテゴリー
安全安心	GOOD for Health	人々の健康的なライフスタイルを促進し、いきいきとした社会の実現に貢献する事業・取り組み	クリーン輸送
	GOOD for Minds	ストレスのない社会、人々が安心・快適に暮らせる社会の実現、使って楽しい心地よいサービスの提供。働き甲斐を感じられる会社へ	手ごろな価格の基本的インフラ設備
	GOOD for Locals	京阪沿線を中心に地域活性化や、地元の産業育成、地元の環境保全などに貢献できる事業や取り組み	
構造改革	GOOD for Social	すべての人々が幸せに暮らせる社会の実現、より美しいライフスタイルの実現に貢献する事業・取り組み	グリーンビルディング
	GOOD for Earth	地球温暖化対策、プラスチックゴミ問題など、地球規模での環境保全に貢献する事業・取り組み	資源循環型の商品、生産技術及びプロセス、認証付きの高環境効率商品
BIOSTYLE	GOOD for KEIHAN Brand	人々の共感や感動を得ることで京阪ブランドの価値向上に資する事業・取り組み、先駆的な取り組みかどうか	社会経済的向上とエンパワーメント
	GOOD for KEIHAN Business	事業として成立し、継続的に実行していくことができる事業・取り組みかどうか	

1.5 サステナビリティボンドの発行意義

当社グループはサステナビリティボンド発行を通じ、お客さま、地域社会、株主・投資家、取引先などのさまざまなステークホルダーに対し、「BIOSTYLE PROJECT」を通じたサステナビリティ経営の推進を発信し、持続的な成長につなげるとともに企業価値のさらなる向上を図ります。

2.1 調達資金の使途

サステナビリティボンドで調達された資金は、以下の適格クライテリアを満たす複数事業もしくは単独事業の新規ファイナンス又はリファイナンスとして充当する予定です。

なお、資金使途がリファイナンスとなる場合には、発行日から3年以内に事業の開始や取得、竣工もしくは環境認証の取得・更新が行われており、環境認証については発行時点で認証が維持されているものに限定します。

適格クライテリア

GBP/SBP のカテゴリー	適格事業	適格事業例
クリーン輸送（GBP）   ● GOOD for Earth	鉄道車両の省エネルギー化 - 以下のいずれかの省エネルギー設備等を導入した車両 ・VVVF インバータ制御装置 ・回生ブレーキ ・LED 照明 ・蓄電池 ・フル SiC 素子（電力損失軽減） ・PMSM（電力損失軽減） ・車体の軽量化・断熱性強化	・車両新造 （京阪電鉄 13000 系） ・車両リニューアル （叡山電鉄 700 系）
	鉄道車両以外の省エネルギー化	・ハイブリッドバス、電気バス導入（京阪バス、京都バス等）
手ごろな価格の基本的インフラ設備（SBP）   ● GOOD for Health ● GOOD for Minds ● GOOD for Locals ● GOOD for Social	鉄道関連インフラの維持・改修・更新による安全性および利便性向上 【受益層】 高齢者、身体障がい者、視聴覚障がい者を含む鉄道サービス利用者	・鉄道関連設備（駅舎、線路、踏切、変電所他）の維持・改修・更新 ・連続立体交差事業 ・バリアフリー設備（EV、多目的トイレ、スロープ・手すり、車いす利用者・視聴覚障がい者対応機器他）の設置 ・ホームドア、転落検知支援システムの導入 ・多言語化対応（案内サインの設置や情報サービスの提供） ・駅案内ロボットや AI カメラ等の IoT 設備の導入

グリーンビルディング (GBP) 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 12 つくる責任 つかう責任 ● GOOD for Locals ● GOOD for Social ● GOOD for Earth	環境配慮型建物 － 以下のいずれかの認証を取得、もしくは将来取得または更新予定の建物 ・ CASBEE A ランク以上 ・ LEED Silver 評価以上 ・ DBJ Green Building 認証 4 つ星以上 ・ BELS 4 つ星以上	・ 「GOOD NATURE STATION」 京阪グループが提案する健康的で美しくクオリティの高い生活を実現し、循環型社会に寄与するライフスタイル「BIOSTYLE」を具現化するフラッグシップ施設 《コンセプト》 信じられるものだけを、美味しく、楽しく 人も地球も元気にする“GOOD NATUTE”なモノ・コトが集まる場所
資源循環型の商品、生産技術及びプロセス、認証付きの高環境効率商品 (GBP) 12 つくる責任 つかう責任 14 海の豊かさを 守ろう ● GOOD for Minds ● GOOD for Earth	脱プラスチックの取り組み － 環境負荷軽減素材（バイオプラスチック）を使用した製品の調達・使用	・ 「GOOD NATURE STATION」における以下の取り組み等 「NEMOHAMO」 完全自然派コスメの容器にバイオマス PE を使用、また化粧箱や製品説明書にはバガス素材を使用 「GOOD NATURE MARKET」 オーガニックな農産物や加工食品を使用したメニューを展開するデリにおいて、バタフライカップ等の紙製容器、生分解性プラスチックを使用したナイフ・フォーク等を提供
社会経済的向上とエンパワーメント (SBP) 1 貧困をなくそう 12 つくる責任 つかう責任 17 パートナースhipで 目標を達成しよう ● GOOD for Health ● GOOD for Minds ● GOOD for Social ● GOOD for Earth	サプライチェーンマネジメント － サステナブルな原料の調達・使用 【受益層】 貧困ライン以下で暮らしている人々を含むカカオの生産者	・ 「GOOD NATURE STATION」における以下の取り組み等 「RAU」 オリジナルのスイーツブランドにおいて、フェアトレードカカオを使用したチョコレートを製造・販売 「SIZEN TO OZEN」 オリジナルのフードブランドにおいて、通常廃棄されるカカオの外皮（ハスク）を活用したカカオシリーズの商品（ティー・カレー等）を製造・販売

2.2 プロジェクトの評価と選定プロセス

調達資金を充当する対象事業は、2.1 で定める適格クライテリアへの適合状況に基づき、当社グループ管理室経理部が選定し、経理部担当役員が最終承認を行います。

なお、当社では、資金使途の選定にあたり対象事業のすべてについて、環境・社会リスク低減のため、以下の項目について対応していることを確認しています。

- ・事業実施の所在地の国・地方自治体にて求められる環境関連法令等の遵守と、必要に応じた環境への影響調査の実施
- ・事業実施にあたり地域住民への十分な説明の実施
- ・上記の項目に関連し、「環境マネジメント専門委員会」を通じたグループ各社の環境マネジメントシステムのフォローアップ、各社の情報の共有化や取り組みの状況の評価・改善、法令改正情報の周知および内部環境監査を通じた環境法令の遵守徹底

2.3 調達資金の管理

サステナビリティボンドにより調達した資金は、調達資金が全額充当されるまでの間、当社グループ管理室経理部が適格事業への充当状況を関連部署と共有したうえで管理します。

なお、未充当資金については、現金または現金同等物にて管理する予定です。

2.4 レポーティング

適格事業への資金充当状況については、調達資金の全額が充当されるまでの間、また適格事業による環境・社会への効果（インパクトレポーティング）については、サステナビリティボンドの発行残高がある限り、以下の指標に基づき、当社ウェブサイトにて、年に一回、実務上可能な範囲で開示します。

なお、調達資金の充当計画に大きな変更が生じる等の重要な事象が生じた場合は、適時に開示します。

① 資金充当状況のレポーティング

- 充当金額
- 未充当金の残高
- 調達資金のうちリファイナンスに充当された部分の概算金額（または割合）

② インパクトレポーティング

GBP/SBP のカテゴリー	適格事業	環境改善効果および社会的成果
クリーン輸送（GBP）	鉄道車両の省エネルギー化	下記指標のいずれかまたは全てを開示 ・ 資金使途となった車両の概要 ・ 資金使途となった車両の投入数 ・ 省エネルギー効果（従来車両比） ・ 想定 CO2 排出量削減効果 (t-CO2)

	鉄道車両以外の省エネルギー化	下記指標のいずれかまたは全てを開示 ・ 資金使途となった車両の概要 ・ 資金使途となった車両の投入数 ・ 想定 CO2 排出量削減効果 (t-CO2)
手ごろな価格の基本的 インフラ設備 (SBP)	鉄道関連インフラの維持・改修・更新による安全性および利便性向上 【受益層】 高齢者、身体障がい者、視聴覚障がい者を含む鉄道サービス利用者	・ 鉄道関連インフラ工事实績 (安全対策、防災対策、バリアフリー対応等) ・ 持続可能な交通手段を提供した駅利用客数等
グリーンビルディング (GBP)	環境配慮型建物	下記指標のいずれかまたは全てを開示 ・ 適格事業の概要 ・ 取得認証レベルと取得時期 ・ 年間 CO2 排出量 (t-CO2) ・ 年間エネルギー使用量 ・ 年間水使用量
資源循環型の商品、生産技術及びプロセス、 認証付きの高環境効率商品 (GBP)	脱プラスチックの取り組み	・ 適格事業の概要 (取得している認証がある場合は、その情報を含む) ・ 適格事業に該当する容器等の使用量 (kg)
社会経済的向上とエン パワーメント (SBP)	サプライチェーンマネジメント 【受益層】 貧困ライン以下で暮らしている人々を含むカカオの生産者	・ 適格事業の概要 ・ 適格事業を通じたカカオの調達量 (kg) ・ 適格事業を通じて取引したカカオ農園数、カカオ農園の雇用者数等

以上